

2007.4.27



アフリカ科学技術協カシンポジウム パネルディスカッション発題

ミッションに参加した際の関心事
それについて分かったこと
ミッションを通じて見えた日アフリカ科学技術協力における課題
今後の日・アフリカ協力のあり方

(独)国際農林水産業研究センター(JIRCAS)

研究戦略調査室 主任研究員

岡田謙介



ミッション参加の関心1： 他分野

- JIRCASは従来、国際機関との共同研究中心、近年は国の研究機関との協力も開始。
- 日本が国全体として、アフリカとの科学技術研究協力を広範に開始しようとしている。
- 他の研究領域は、日本や現地で、どのような研究をどのような協力構築して行なっているのか、また行おうとしているのか？
- その中でもう一度農業分野の共同研究の位置づけを見直したい。
- また他分野との協力関係によって新しい研究協力が展開できないかと考えている。

JIRCASのアフリカでの共同研究 (1)



国際農業研究機関との共同研究 ('80~)

国際家畜研究所(ILRI)ケニア ('80-'06) 家畜疾病

国際熱帯研究所(IITA) ナイジェリア('90-'95) ササケの耐乾性

国際昆虫生理生態研究所(ICIPE)ケニア('94-'04) バッタ防除

西アフリカ稲研究センター(WARDA)象牙、
ナイジェリア('97-現在) 稲の乾燥抵抗性



国立研究所との共同の開始

半乾燥熱帯作物研究所(ICRISAT-Niger)

ニジェール サヘル地域の土壌肥沃度管理

(共同:ニジェール国立農業研究所(INRAN))

ギニア国立農業研究所(IRAG)

アフリカ稲の冠水適応性



JIRCASのアフリカでの共同研究 (2)



緑資源機構海外部の承継により
JIRCAS で実施が開始されたプロジェクト('08年4月)
(すべて国立機関との協力による)

- エチオピア (2004-09) 砂漠防止
- エチオピア (2007-09) 天水の効率的利用技術
- ニジェール (2007-11) 水の循環利用技術 (農水省拠出)
- ニジェール (2005-09) サヘルオアシス (JICAからの委託)
- ガーナ、エチオピア (予定) (2008-12) 水田造成、水管理
- マリ、ニジェール (2008-12) 自然資源管理

ミッション参加の関心2: 南・北部アフリカ



- JIRCASは途上地域を主な対象とし、アフリカでも西と東が中心。比較的経済発展が進んでいる南・北部については、情報が少ない。

亜熱帯気候(南部)、乾燥地気候・地中海気候(北部)はJIRCASの中心対象でない

- しかし南アフリカとエジプトは、周辺国を含めたサブ地域協力の核である。
- そこで南南協力の枠組みも視野に入れて、この2カ国を訪問して、新しい協力の可能性を探り、その周辺の国との関係についての情報を得ることを期待して参加した。

アフリカの地域・サブ地域農業研究ネットワーク

地域



事務局長: Dr. Mandy Jones
(FARA代表)

アフリカ農業研究
フォーラム
(**FARA**)
事務局所在地: ガ
ーナ・アクラ



アフリカ連絡拠点
本年5月開設

東

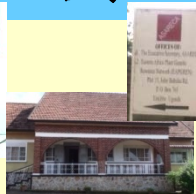
西

南

北



東部・中央アフリカ
農業研究強化協
会
(**ASARECA**)
事務局所在地:
ウガンダ・エンテベ



西・中部アフリカ
における農業研
究・開発のため
の協議会
(**CORAF/WE
CARD**)
事務局所在地:
セネガル・ダカ
ール



南部アフリカ開
発共同体－食
料・農業・自然資
源
(**SADC/FANR**
)事務局所在地:
ボツワナ・ハボロ
ーネ

北アフリカサブ
地域機構
(**NASRO**)
事務局所在地:リ
ビア

4/19に発足

サブ地域

参加して得たこと

- 他分野との情報交換

日本側のミッションメンバーとアフリカ側の訪問先の両方について、他分野との交流から今後の研究協力のヒントを得た

- ・アフリカの水田開発とマラリア対策技術
- ・地球規模の気候変動予測技術と乾燥地農業の危険回避

- 北部・南部アフリカ

南アの層の厚い研究体制と国際協力の実績

エジプトの高い水準の穀物生産技術(含む稲)と日本への期待

- サブ地域組織

南部アフリカ SADC/FARNの情報収集

アフリカとの研究協力の 課題・今後のあり方

- 多大な期待と現実との距離

 - アフリカ側

 - 自主的に科学技術を発展させていこうという意欲
適切なパートナーシップの必要性

 - 日本側

 - アジアに比べて意識が十分高くない
人材的に限りがある

- 戦略とシステムの柔軟性

 - 公募制を越えて？

 - 戦略に応じて適切な拠点国との協力を重点化

- 対等な関係での共同研究